

令和2（2020）年度 FFJ 環境調査の手引き

日本学校農業クラブ連盟
環境調査評価委員会

（1）調査テーマと調査対象種：“タンポポ調査”～第2弾～「在来種を探そう」

○調査対象種：【在来種】シロバナタンポポ、黄花系在来種（※）

【外来種】セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、在来種と外来種の雑種

※「いきものログ」への登録の簡易化を図るため、今回の調査では黄花系在来種の細かな区別
は行わず、調査票ならびに集計表には全て「カントウタンポポ」と記入してください。

（2）調査期間：令和2（2020）年2月7日（金）から8月5日（水）

《注》在来種の開花時期は一般的に3～5月であることから、調査の実施が6月以降に集中する
ことはできるだけ避け、5月中までの調査実施についても積極的にお願いいたします。

（3）具体的な調査・集計方法について

①各单位クラブおよび都道府県連盟においては、「令和2（2020）年度FFJ度環境調査について」、
「令和2（2020）年度環境調査の手引き（本紙）」、「個人調査票2020」、「環境調査集計表2020」
を日連HPからダウンロードし、令和2年2月7日（金）から利用してください。

②調査者は、「Geocode Viewer」を用い、現住所などから3次メッシュコードを求めて「個人調査
票2020」に観察内容を記入してください。各单位クラブ担当者は個人調査票を取りまとめ、「環
境調査集計表2020」の「（集計表）県連事務局提出用」にまとめて記入してください。

《Geocode Viewer》 <http://www.geosense.co.jp/map/tool/geoconverter.php>



※右の2次元バーコードを読むことで、上記のサイトにアクセスできます。

③各都道府県連盟事務局は、単位クラブから集めた集計結果を「環境調査集計表2020」の「（集
計表）日連事務局提出用」にまとめ、電子メールまたは電子記録媒体（CD-R等）を利用し、
日連事務局へご提出ください。日連提出期限：令和2（2020）年11月13日（金） 必着

《提出先》 ○電子メールの場合：jimu@natffj.org

○郵送の場合：〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-3 シルキーハイツ九段南104 日連事務局

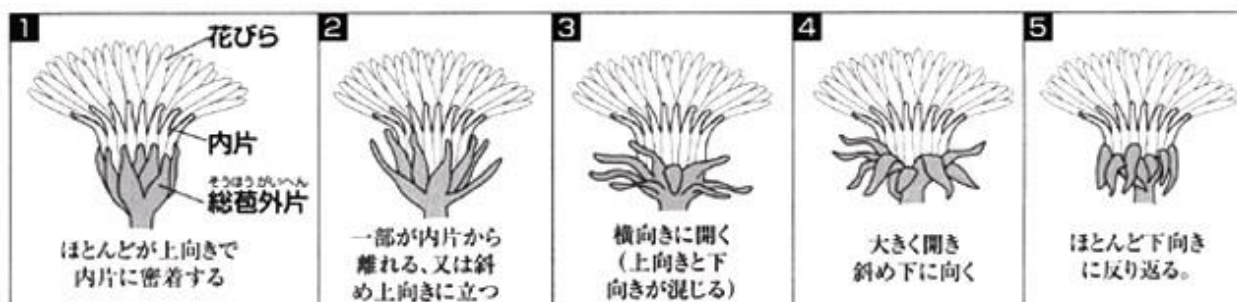
（4）タンポポの種類の判別（在来種と外来種の見分け方）

①花卉が「白色」の場合、在来種の「シロバナタンポポ」と判断し、調査票に記入します。

②花卉が「黄色」の場合、総苞外片の形によって判断します。下図の①、②については「在来
種」と判別し、全て「カントウタンポポ」として、記入してください。

③下図の③～⑤を外来種（セイヨウタンポポまたはアカミタンポポ）と判断し、種名を記入して
ください。なお、アカミタンポポについては果実の色の観察が必要となります。

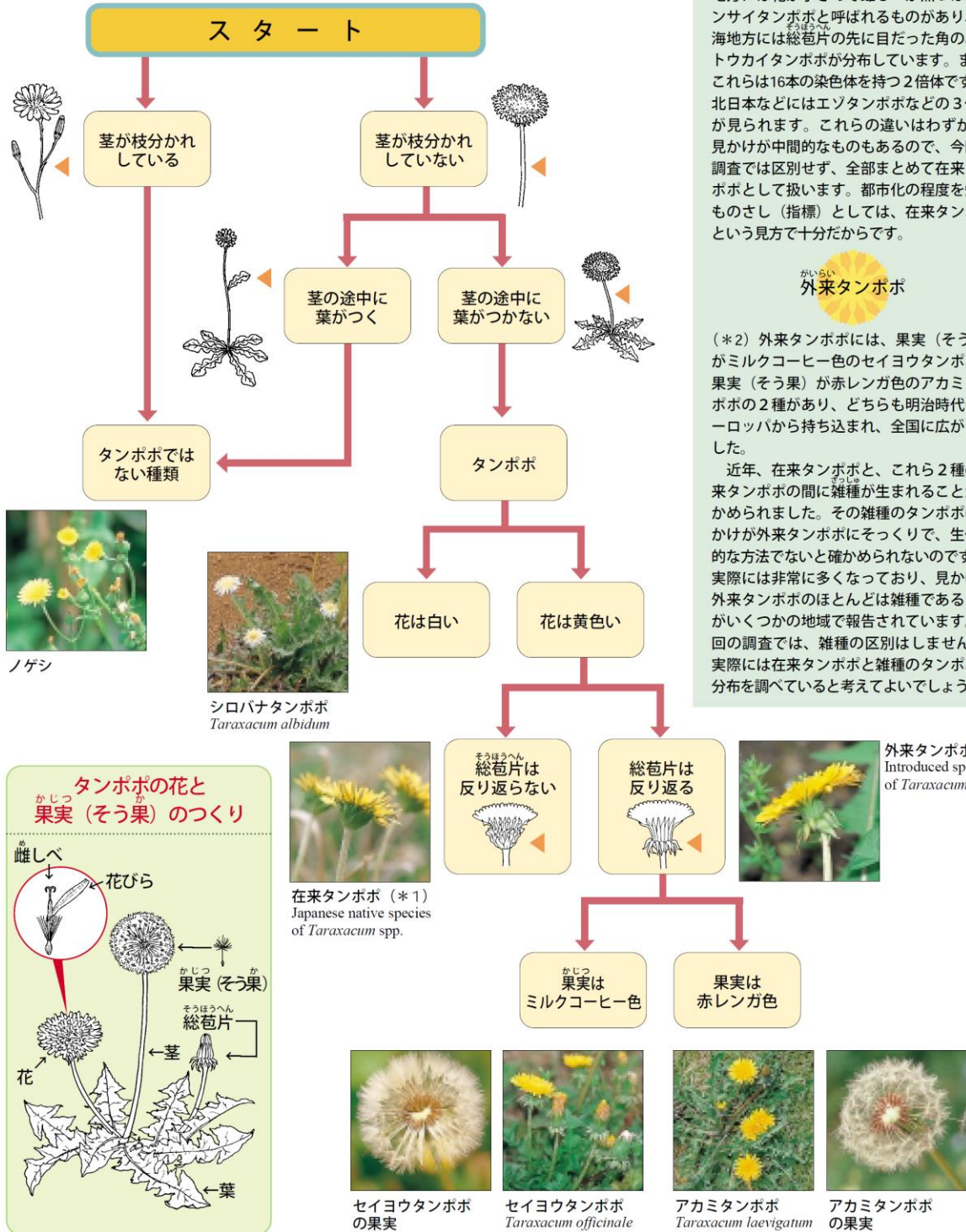
④「雑種」と判断した場合は、外来種として「セイヨウタンポポ」と記入してください。



【出典】『タンポポ調査・西日本2015調査報告書』タンポポ調査・西日本実行委員会編、2016年）

タンポポ検索図

この調査では、タンポポを4つの種類に分けて記録します。タンポポは、どの種類も、花のついている茎が枝分かかれず、またその途中で葉がつかないという共通の特徴を持っています。枝分かれたり、小さな葉がついていれば別の種類です。下の検索図を使ってあなたが見つけたタンポポを調べてみましょう。

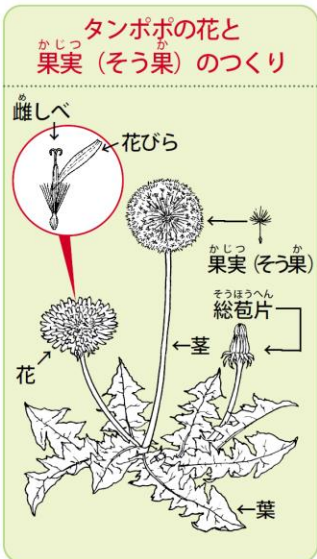


在来タンポポ

(*1) 日本列島にもともと生えているタンポポのことを、ここでは在来タンポポと総称して呼びます。在来タンポポには、地域によっていろいろな特徴のものがあり、約20種に分類されています。たとえば、関西地方には花が小さめで雌しべが黒っぽいカンサイタンポポと呼ばれるものがあり、東海地方には総苞片の先に目だつた角のあるトウカイタンポポが分布しています。また、これらは16本の染色体を持つ2倍体ですが、北日本などにはエゾタンポポなどの3倍体が見られます。これらの違いはわずかで、見かけが中間的なものもあるので、今回の調査では区別せず、全部まとめて在来タンポポとして扱います。都市化の程度を知るものさし（指標）としては、在来タンポポという見方で十分だからです。

外来タンポポ

(*2) 外来タンポポには、果実（そう果）がミルクコーヒー色のセイヨウタンポポと果実（そう果）が赤レンガ色のアカミタンポポの2種があり、どちらも明治時代にヨーロッパから持ち込まれ、全国に広がりました。近年、在来タンポポと、これら2種の外来タンポポの間に雑種が生まれることが確かめられました。その雑種のタンポポは見かけが外来タンポポにそっくりで、生化学的な方法でないと確かめられないのですが、実際には非常に多くなっており、見かけの外来タンポポのほとんどは雑種であることがいくつかの地域で報告されています。今回の調査では、雑種の区別はしませんが、実際には在来タンポポと雑種のタンポポの分布を調べていると考えてよいでしょう。



【出典】『身近な生きもの調査 身近な林（春夏調査編）調査の手引き』環境省、2001年